

■米国：First Energy 社の石炭火力廃止により発電容量市場価格上昇の可能性

2012年2月3日付の業界紙は、1月26日に発表されたFirst Energy社（本社：オハイオ州）石炭火力発電所（14ユニット、合計約270万kW）の廃止の影響により、PJMの発電容量市場価格が上昇すると報じている。UBS投資リサーチ社の予測では、PJMオハイオ地区の発電容量価格は過去入札実績の126ドル/MW・日から2015年までに200ドル/MW・日へ、場合により250ドル/MW・日まで上昇すると試算された。これによりオハイオ州の小売事業者の発電容量確保費用が今後約60%増加する可能性があるとしている。First Energy社の石炭火力廃止は市場価格上昇を狙ったものでないかとの憶測も出ているが、同社はこれを否定している。なお、PJMは2015年および2016年を対象とした発電容量のオークションを2012年5月18日に実施する予定である。